

分野 歴史

地域 北波多

波多三河守親

～波多氏の興亡～

◎地図・写真・統計資料など



波多三河守親の墓



切木ぼたん

(『唐津探訪』より)

■松浦地方を支配した波多氏の興亡

松浦党の祖、源久の流れをくむ17代波多三河守親は、上松浦党を束ねてきた戦国時代の松浦領主。岸岳（標高320m）に築かれた堅牢な山城を居城として、領地の整備・発展に励み、確固たる地盤を築き上げました。

しかし、豊臣秀吉によってその隆盛は無残に打ち砕かれてしまいます。朝鮮出兵で兵の半数以上も失う働きを見せながら、いわれなき讒言によって秀吉の不興を買ひ、お家取り潰しとなってしまいます。釈明の機会も与えられず、三河守は常陸国筑波山に幽閉されました。

佐賀県指定の天然記念物に「切木ぼたん」という薄紅の花があります。三河守夫妻が愛した明国渡来の牡丹で、家臣が主君をしのび焼け落ちた岸岳城跡から持ち帰り、肥前町切木に移植したものです。このエピソードは遠く博多へも伝わり、以来、三河守に同情した人びとは博多祇園山笠の飾りに牡丹を加えるようになったといわれています。

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html